

青少年体験活動ボランティア養成研修

第1回：令和元年5月11日(土)～12日(日) 第2回：令和元年6月1日(土)～2日(日)

【目的】教育事業や研修支援などの運営協力・指導補助などを担うボランティア人材を育成し、青少年教育におけるボランティア活動を一層推進するとともに、本所におけるボランティア活動の充実を図る

【参加者】第1回：46名 第2回：10名

【プログラムの内容】

1日目

10:00 開講式、オリエンテーション
10:30 講義「ボランティア活動の意義」
13:30 講義・演習「安全管理」
19:15 講義「青少年教育」

2日目

9:00 講義「青少年教育施設の現状と運営」
10:20 演習「ボランティア活動の技術（野外炊飯）」
14:30 講話「青少年教育施設におけるボランティア活動」
15:40 講義・演習「これからのボランティア活動」
16:00 説明「法人ボランティア登録制度」
16:45 閉講式

講義「ボランティア活動の意義」

講師：第1回 山口大学附属幼稚園 高田 和宜 氏
第2回 山口市社会福祉協議会 大塚 秀美 氏



ボランティア活動について知り、活動に対する心構えや留意点を互いの意見を交えながら考えた。

講義・演習「安全管理」 講師：赤十字救急法指導員



目の前の対象者が安全に活動できるための準備から応急手当の方法について演習を交え学んだ。心肺蘇生法の手順、AEDの操作方法を確認しながら、真剣に取り組む姿があった。

講義「青少年教育」

講師：国立山口徳地青少年自然の家次長 中村 慶治 氏



発達段階に見られる特性に応じた関わり方について学んだ。教育効果や、子どもたちのロールモデルになる役割とともに自分自身の成長につながる活動について考える機会となった。

講義「青少年教育施設の現状と課題」

講師：国立山口徳地青少年自然の家所長 森山 都留男 氏



青少年教育施設が様々な機会と学びを生み出す場所として様々な活動を展開していることについて学んだ。本所の事業についても紹介いただいた。

講義・演習「ボランティア活動の技術（野外炊飯）」



活動の実際を体験的に学び、その気づきを意見交換した。薪割りからカレー作りを行い、野外活動の技術だけでなく活動の効果や予想されるリスクについて意見を交えた。

講話「青少年教育施設におけるボランティア活動」

講師：本所で活躍している先輩ボランティア（大学生）



先輩ボランティアから活動の魅力や活動を始めたきっかけについてお話しいただいた。活動への具体的な質問も飛び交い、心に響く生の声に活動意欲も高まっている様子だった。

講義・演習「これからのボランティア活動」

説明「ボランティア登録制度」

研修のふりかえりとともに、今後どのようにボランティア活動を行っていきたいか参加者同士、言葉を交した。

登録制度について説明を受け、前向きな意欲を持った参加者から事業への問い合わせを多数いただいた。

【参加者の声】

- ぼんやりとしていたボランティアの意義がはっきりして、自らのスキルアップにつながった。
- ボランティア活動の魅力を知って、自信がつき、積極的に活動に参加したいと思った。

【成果と課題】

講師の先生方と打ち合わせを行い、目的に応じた講義内容を組むことができた。参加者同士のコミュニケーションを図る時間が関係づくりにもつながり、活動への意欲向上にも成果が見られた。また、参加者56名中55名が法人ボランティア登録をしていた。

課題としては、参加意欲を持っている方が参加しやすい開催時期の検討が必要である。また、講師の方々のスケジュールを考慮し、研修のプログラム構成をセクションごとのつながりに合わせた内容にブラッシュアップしていく余地が見られる。